

8・9月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに ~希望に錨を下ろして~



ゆるしの秘跡と聖体拝領に関する課題

グエン・タン・ニャー神父

ゆるしと聖体の秘跡は言うまでもなく、カトリック信仰の中で大事にしている7つの秘跡のうちの2つです。しかし、この2つの秘跡は同じカトリック信者でも異なる理解と実践があります。自分がある教会によって、相違が出てきます。これまであまり話題にならなかったのですが、外国に住む信者が増えてきて、自分の国の教会と住んでいる外国の教会との違いに違和感を抱く人々が少なくないそうです。特にゆるしと聖体の秘跡について、在日ベトナム人の信者と日本人の信者との理解と実践の相違をよく耳にします。多くの日本人の司祭と信

徒は、在日ベトナム人の若者たちがミサに参加していても、聖体拝領しないことを見て驚きます。理由を聞くと、ゆるしの秘跡を受けていないので聖体拝領は出来ない、という答えだったそうです。当教会では毎週土曜・日曜のベトナム語のミサ前に、告解のために行列するベトナム人の信者の姿を見て、驚く日本人が多いそうです。

明確にしておきたいことは、ベトナムのカトリック教会にはカトリック教会全体と同じように、毎回のミサにゆるしの秘跡を受ける義務はないのです。ここでの課題は、自分が大罪を犯していたら、ゆるしの秘跡を受けたいと聖体拝領できない、という考え方です。

まず、この課題の背景をみてみましょう。ベトナムのカトリック教会ではすべての信徒は6歳から18歳まで毎週日曜日に教会学校に通う習慣があります。教会学校で習

うカテキズムの中で最も強調することは、聖変化によって、ホスチアが普通のパンではなくイエスの御体になり、崇敬しなければならぬということですが、従って、ふさわしい状態で受けなければならぬ、という意識はとても強いのです。大罪を犯していたら、絶対に受けられません。そこで、大罪とは何かを考えなければなりません。

日曜学校では罪について、細かく教えます。大罪は神の十戒の内容を犯した罪なのです。特に、主日は主のための日で、主日のミサに参加しないと自動的に大罪になると考え、ゆるしの秘跡を受けないと聖体拝領しない人々は多いようです。これについて一所懸命に説明しても、まだまだ理解してもらえないです。「自分のせいではないなら(仕事や健康の状態など)、大罪ではなくて聖体拝領しても良いよ」と言っても、すぐに受け入れることは難しいです。

最近のカトリック教会の中にはゆるしの秘跡を軽視する傾向も見られます。ゆるしの秘跡の意味や意義などを見失ってきた人々が少

なくないようです。何十年もゆるしの秘跡を受けていないのに、ミサにでるたびに、聖体拝領する習慣も良くないのではないのでしょうか。この傾向も危険だと感じます。

日本のカトリック教会の特徴はいろいろな国から人々が集まっていることです。同じカトリック信者であっても、文化や考え方が違って、信仰実践にも相違が出てきます。相違をすぐ解決することよりも、互いにもっと分かち合い、理解し合うことの方が大事だと思えます。秘跡は、特に聖体を受けることが、正しい生活に対するご褒美でもないが安っぽいものでもないことを、理解できるような恵みを祈りましょう。

教会報 MAGIS 8月9月合併号

- † 2025年聖年「青年の祝祭」
9名の巡礼団を派遣 P2 ~ 3
- † 教会行事報告 P4
- † 新しい教会学校について P5
- † (教会活動連絡会便り)
~宣教と祈りの連絡会~ P6
- † Family of St. Ignatius
~インドネシア共同体から~ P7

【8月の共同祈願】

夏休みの子どもたち、
ローマの巡礼に参加する若者、
大人の私たちが、
聖母マリアとともに
世界平和のために
熱心に祈れますように。

【9月の共同祈願】

自然環境を含めた すべてのいのちを守るために、
個人として共同体として、
できることを見つけて実行できますように。
「すべてのいのちを守るための月間」に
あたって祈ります。
自分を大切にするように、
まわりの人も心から大切に、
日々、行動することができますように。



2025年聖年
「青年の祝祭」に巡礼団9名を派遣

7月28日(月)～8月3日(日)にローマ・バチカンで開催の2025年聖年「青年の祝祭」に、当教会より青年信徒9名が派遣されました。

●派遣団員の紹介
(順不同)

よって教会の奉仕活動をさらに充実させ、自身の信仰も深めたいと考えています。このように、聖年「青年の祝祭」で得る経験を、教会と地域社会に還元し、より豊かな信仰生活を築いていきたいと願っています。

ベトナム共同体から来ました。聖イグナチオ教会で6年間活動しています。これは私にとって本当に貴重な機会です。私が聖年の「青年の祝祭」に参加したい理由は、カトリックの信仰をより深く理解し、世界中の若者たちと信仰を分かち合うことが出来るからです。私は、さまざまな文化や背景を持つ人々と出会う機会を通じて、新たな視点から信仰を見つめ直すことができると考えています。さらに、このイベントがカトリックの中心であるローマで開催されることも、私にとって大きな魅力であり、いつか訪れたいという夢にもつながっています。

私は、「青年の祝祭」で得た経験を今後の信仰生活や教会活動に生かすために、いくつかの目標を持っていきます。また、自分が見て、聞いて、学んだことを共同体のメンバーと分かち合い、それに

国際青年会 副代表を務めています。教会に所属して2年が経ち、新たな信仰や奉仕の心、そして温かい家族のようなつながりを感じ、たくさんのもを得ています。カトリックの家庭で育ちましたが、信仰は努力して育てるものと学びました。神さまとの関係を築くには献身が必要です。

私は、国際青年会の活動でいつも刺激を受け、このことに気付きました。同じ愛と信仰の成長を願うたくさんの人々とともにローマにいられるのが待ちきれません。

個人的な成長だけでなく、聖イグナチオ教会の多様なコミュニティの活動を強める新たなエネルギーと刺激を持ち帰りたいです。

ナチオ教会で6年間活動しています。これは私にとって本当に貴重な機会です。私が聖年の「青年の祝祭」に参加したい理由は、カトリックの信仰をより深く理解し、世界中の若者たちと信仰を分かち合うことが出来るからです。私は、さまざまな文化や背景を持つ人々と出会う機会を通じて、新たな視点から信仰を見つめ直すことができると考えています。さらに、このイベントがカトリックの中心であるローマで開催されることも、私にとって大きな魅力であり、いつか訪れたいという夢にもつながっています。

私は、「青年の祝祭」で得た経験を今後の信仰生活や教会活動に生かすために、いくつかの目標を持っていきます。また、自分が見て、聞いて、学んだことを共同体のメンバーと分かち合い、それに

ベトナム共同体から来ました。聖イグナチオ教会で6年間活動しています。これは私にとって本当に貴重な機会です。私が聖年の「青年の祝祭」に参加したい理由は、カトリックの信仰をより深く理解し、世界中の若者たちと信仰を分かち合うことが出来るからです。私は、さまざまな文化や背景を持つ人々と出会う機会を通じて、新たな視点から信仰を見つめ直すことができると考えています。さらに、このイベントがカトリックの中心であるローマで開催されることも、私にとって大きな魅力であり、いつか訪れたいという夢にもつながっています。

私は、「青年の祝祭」で得た経験を今後の信仰生活や教会活動に生かすために、いくつかの目標を持っていきます。また、自分が見て、聞いて、学んだことを共同体のメンバーと分かち合い、それに

ベトナム共同体から来ました。聖イグナチオ教会で6年間活動しています。これは私にとって本当に貴重な機会です。私が聖年の「青年の祝祭」に参加したい理由は、カトリックの信仰をより深く理解し、世界中の若者たちと信仰を分かち合うことが出来るからです。私は、さまざまな文化や背景を持つ人々と出会う機会を通じて、新たな視点から信仰を見つめ直すことができると考えています。さらに、このイベントがカトリックの中心であるローマで開催されることも、私にとって大きな魅力であり、いつか訪れたいという夢にもつながっています。

私は、「青年の祝祭」で得た経験を今後の信仰生活や教会活動に生かすために、いくつかの目標を持っていきます。また、自分が見て、聞いて、学んだことを共同体のメンバーと分かち合い、それに

ベトナム共同体から来ました。聖イグナチオ教会で6年間活動しています。これは私にとって本当に貴重な機会です。私が聖年の「青年の祝祭」に参加したい理由は、カトリックの信仰をより深く理解し、世界中の若者たちと信仰を分かち合うことが出来るからです。私は、さまざまな文化や背景を持つ人々と出会う機会を通じて、新たな視点から信仰を見つめ直すことができると考えています。さらに、このイベントがカトリックの中心であるローマで開催されることも、私にとって大きな魅力であり、いつか訪れたいという夢にもつながっています。

私は、「青年の祝祭」で得た経験を今後の信仰生活や教会活動に生かすために、いくつかの目標を持っていきます。また、自分が見て、聞いて、学んだことを共同体のメンバーと分かち合い、それに

ベトナム共同体から来ました。聖イグナチオ教会で6年間活動しています。これは私にとって本当に貴重な機会です。私が聖年の「青年の祝祭」に参加したい理由は、カトリックの信仰をより深く理解し、世界中の若者たちと信仰を分かち合うことが出来るからです。私は、さまざまな文化や背景を持つ人々と出会う機会を通じて、新たな視点から信仰を見つめ直すことができると考えています。さらに、このイベントがカトリックの中心であるローマで開催されることも、私にとって大きな魅力であり、いつか訪れたいという夢にもつながっています。

私は、「青年の祝祭」で得た経験を今後の信仰生活や教会活動に生かすために、いくつかの目標を持っていきます。また、自分が見て、聞いて、学んだことを共同体のメンバーと分かち合い、それに

ベトナム共同体から来ました。聖イグナチオ教会で6年間活動しています。これは私にとって本当に貴重な機会です。私が聖年の「青年の祝祭」に参加したい理由は、カトリックの信仰をより深く理解し、世界中の若者たちと信仰を分かち合うことが出来るからです。私は、さまざまな文化や背景を持つ人々と出会う機会を通じて、新たな視点から信仰を見つめ直すことができると考えています。さらに、このイベントがカトリックの中心であるローマで開催されることも、私にとって大きな魅力であり、いつか訪れたいという夢にもつながっています。

※派遣団員の紹介文は、出発前に寄せられたものです。

聖イグナチオ教会で、ベトナム共同体の侍者として8

年間奉仕してまいりました。異国の地で信仰の旅を歩む中、特に典礼と奉仕を通して、共同体の中における主の愛と導きを深く感じています。このたび、私はフランスのテゼ共同体とイタリア・ローマへの巡礼の旅、そしてローマで開催される「青年の祝祭」に参加する予定です。テゼでは、沈黙と祈りに満ちた雰囲気の中で黙想を深め、エキシメニカルな精神に触れることができ、ローマでは世界中から集まる若者たちとともに信仰を分かち合い、福音の喜びを再確認する貴重な機会となります。

この巡礼は、私が識別している召命の歩みの中で、霊的に大きな意味を持つものです。また、国際的な教会共同体の中で神の声に耳を傾ける機会であり、日本におけるベトナム共同体を代表して、皆さんの祈りと交わりを携えて教会の聖地を訪れる、特別な恵みでもあります。

中学一年生の時に当教会で洗礼を受けて、大学入学後は活け花グループの一員として教会生活に関わってきました。現在は教会音楽の研究に取り組みながら、大学で宗教音楽史や西洋音楽史などを講義しています。

聖年にあたり、希望の巡礼者として世界各地から集まる若者たちとともに神を賛美する中で、どのような音楽が人々の心に光と恵みをもたらすのか、自らの体験を通して感じたいと願っています。そして、それらを歴史的な教会音楽研究の中でいかに位置づけることができているのか、考えていきたいと思っています。

2023年 山口県の宇部教会から転入し、現在は日曜入門講座のスタッフをしています。

不安や疑いを抱きがちな日々の中で、「希望」を再確認したいと思い今回の巡礼

に応募しました。今はまだ準備段階ですが、それぞれの生活と教会活動で忙しい合間を縫って準備をするメンバーたちの姿に、既に力をもらっています。現地では、聖地の大きな恵みを受け、同じ若者同士で信仰の力を分かち合いたいです。私たちが聖イグナチオ教会の「希望」として、一層輝いて帰ってくることを楽しみにしています。

幼少期からカトリックの精神が常に身近にある環境で育ち、自分の信仰が自分の「意思」によるものなのか、「環境」によって形づくられたものなのか、分からなくなることがありました。この巡礼では、信仰が社会に根付く土地に自ら身を置き、世界中の人と交流することで、他者を知ると同時に改めて信仰というものを自分の言葉で捉え直す機会にしたいと思っています。

幼少期からカトリックの精神が常に身近にある環境で育ち、自分の信仰が自分の「意思」によるものなのか、「環境」によって形づくられたものなのか、分からなくなることがありました。この巡礼では、信仰が社会に根付く土地に自ら身を置き、世界中の人と交流することで、他者を知ると同時に改めて信仰というものを自分の言葉で捉え直す機会にしたいと思っています。

間へと成長できるよう一杯学んでいきます。

幼いころから聖イグナチオ教会に通い、教会学校などを通って信仰に親しんできました。今回、その聖イグナチオ教会から巡礼に派遣していただけることを心から嬉しく思います。この旅を通して、自分の信仰を見つめ直し、確かなものとして心に刻み、次の世代へと伝えていきたいと考えています。世界中の若者と出会い、同じ信仰を分かち合えることも大きな期待を抱いています。また、宗派を超えた一致を実践しているテゼ共同体にて、混乱する今の世界における希望の種を見つける旅にしたいと願っています。

私はベトナム出身で、日本に来て8年になります。

2000年の聖年に生まれましたが、そのときは赤ちゃんだったので信仰や祝い方

は知りませんでした。今年25歳となり、意識して迎える初めての聖年です。次の聖年には私は50歳。だからこそ、今この「聖年の青年」として巡礼に参加したいと思いました。

初めまして。高校生会でリーダーをしています。

私は高校生のときに受けた堅信を機に、聖イグナチオ教会に転入し、リーダーとして活動してきました。今回、巡礼に派遣させていただけることになり心から嬉しく思っております。私は、今回の巡礼に何かしらの「導き」があると感じています。巡礼のお知らせを見つけ、「行くしかない」と思い参加を決心しました。

これからの人生において、信仰とは何かを考える機会にできればと思っています。

これからの人生において、信仰とは何かを考える機会にできればと思っています。

教会行事

6月下旬から7月中旬に行われた主な教会行事をご紹介します。

●新侍者祝福式・更新式

7月13日(日)10時からの子どもとともにささげるミサの中で執り行われました。主司式は森晃太郎神父。8名の新侍者が祝福式、7名の侍者が更新式に臨み、高祖敏明主任司祭、ボニー・ジエームス神父、柴田潔神父、グエン・タン・アン助祭から祝福を受けました。

ミサ説教で柴田神父は、よきサマリア人のたとえ話(ルカ10:25-37)を引用され、「侍者になり『神さまの近くに行くこと』で、神さまの席から見えるようになります。神さまのために働ける気がして、教会に来るのが楽しみになります。新侍者祝福式は、毎年行われていますが、信仰・奉仕が受け継がれていく、神秘的なお祝いです。大人の私たちも、生き生きとした信仰が育つように願いました」と話されました。

新侍者に豊かなお恵みがありますように！

侍者会のリーダーとミサでの動きや心がまえなどしっかりと準備して、毎年7月に新しい侍者がデビューします。ミサの中で新侍者の証、白い襟を8名の新侍者が柴田神父から授与されました。それぞれから寄せられたメッセージをお届けします。これから、よろしくお願い致します。



新しい教会学校について

小学生を対象とする教会学校は、これまで土曜日と日曜日に2つありました。2025年4月から、「小学生会」が発足しました。

小学生会は、日曜日に活動します。2学期からは、年長さんの年も参加可能です。未就学児・保護者対象の「イグナチオ文庫」による読み聞かせもあります。中学生会・高校生会・侍者会は、これまでの運営方法が維持されます。

教会学校の体制が新しくなり、子どもたちを育むより良い場所となるよう、リーダーを中心に協力しながら、ともに歩み続けます。各教会学校のリーダーの意気込みをご紹介します。

聖イグナチオ教会の子どもたちとリーダーのために、どうぞお祈りください。

●小学生会

こんにちは！ 2025年度から土曜学校・日曜学校がひとつになって新しく小学生会が誕生しました。小学

生会では小学生を対象に、

通常活動のほか遠足、キャンプやクリスマス会などを行い、楽しく信仰に親しむことを大切に活動しています。また、未就学児向けのマリアクラスも年3回開催します。遠足・夏キャンプには40名を超える申し込みがあり、嬉しいスタートとなりました。

始まったばかりの会ですが、リーダー一同、子どもたちの成長のために励んでいます。

▲みんなで遠足！

いります。温かく見守っていただければ幸いです。

●中学生会

中学生会は、土曜学校・日曜学校の卒業生はもちろん、堅信や友人の誘いなどきっかけはさまざまですが、毎週多くの中学生が参加しています。ミサ、キリスト教のミニ授業やイベントなどを通して、中学生が主体となり、学年の枠を越えて活動を行っています。通常会（日曜9:30）信徒会館101号室の他、年4回の宿泊行事や、今年度は3月に巡礼も予定しております。同世代の仲間とともに遊びながら信仰を深める場として、現在リーダー5名で運営に励んでおります。中学生なら誰でも参加可能です。ご参加お待ちしております。

▲ひとつになって

●高校生会

私たち高校生会の活動のテーマは「高校生のための高校生会」です。同世代の仲間との交流を通して、信仰と理解を深めます。日々の活動では高校生のやりたい事を中心に、バレーボールやボードゲーム、料理や工作などをして楽しい時間を過ごしていきます。夏にはキャンプを行います。水遊びや花火、キャンプファイア、ミサ、分かち合いをします。

普段、聖イグナチオ教会に來ている高校生の方で、日曜日に息抜きや交流をしたいと思っっている方は、ぜひ高校生会にお気軽にお越しください！ お待ちしております。

▲みんなで工作！

●侍者会

侍者会の活動は主に、日ミサ・子どもとともにささげるミサ・クリスマスミサ・聖週間・その他典礼での侍者の奉仕です。また毎年、新侍者祝福式・夏キャンプ・授業を行っています。

現在は合わせて約75名の小学生、中学生、高校生が侍者の奉仕をしています。

今年の7月に8名の新侍者が誕生しました。新侍者の子どもたちがこれからもっと活躍できるように祈るとともに、今の侍者の子どもたちにも安心して奉仕できるように、自分たちもより一層頑張っていけます。

▲8名の新侍者たちとともに

教会活動連絡会便り

2024年度の「教会活動連絡会議」では、「教会活動連絡会の機能・運営の強化」について、1年をかけて対話を重ねてきました。前回に引き続き、新設された「宣教と祈りの連絡会」の歩みをご紹介いたします。

宣教と祈りの連絡会

ともに歩む祈りと宣教の道

◆有機的なつながりが

動き出す

2024年度教会活動連絡会議において「宣教と祈りの連絡会」が設立されました。そのメンバーとして、IIの活動グループが登録されましたのでご報告させていただきます。

それぞれの活動グループは発足の年代や趣旨、目的が異なっていますが、連絡会の方向性である同種の目的を有するグループと関係する情報を共有し、奉仕の人手を融通するなど有機的に連携して、より効果的な活動を行うという趣旨で組織化されました。

「宣教と祈りの連絡会」のスタートを機会に、それぞ

れの活動グループ間においてコミュニケーションを活発に図るとともに、「ミッション2030」の意向に沿った教会活動にどのように役立つことができるかを考え、ともに歩めるよう願っています。

IIの活動グループの内訳として、「アルペ神父の列聖を祈る会」「祈りを深めるグループ」「オルガンと祈りグループ」「真和会」「水曜会」「宣教パウロ会」「壮年会」「マリア会」「メンズクワイア」「ヤングオールド」「ロザリオの祈り会」となっています。

◆これまでの歩み

これからの祈り

長い歴史を経てきたグループや、発足して一年のグループもあります。例えば、これらの活動グループの中で最も長い歴史があり活発に奉仕してきたのが、女性のグループ「マリア会」です。

1949年（昭和24年）には「大きな木の舟」であった旧聖堂が竣工し、土井辰雄大司教により献堂式が行われました。当時の信徒数はわずか千二百名でした（現在は約一万八千名）。そしてその年に「マリア会」が発足し、今日まで76年間にわたって多くの女性の方々が献身的に活動してきました。

また、1962年（昭和37年）から始まった第2バチカン公会議の議論を受けて、当教会でも1966年（昭和41年）に祭壇が対面式に変わりました。主任司祭がヘルマン・ホイヴェルス神父からヨハネス・ベチコフエル神父になられた時に、主に、一般の方々に向けた宣教・布教のための「真和会」が発足し、以来59年間にわたって285回の講演会活動が続けられています。

「祈りを深めるグループ」は、ミッション2030の「一つの柱である『祈りを深める』をグループ化したものです。具体的には①聖体礼拝（第1・第3土曜日、特に第1土曜日は「司祭・修道者の召し出しを祈る聖体礼拝」）②聖書通読（第2・第

4土曜日）③聖歌を歌おう（第2金曜日）④祈りのとりなし隊（教会の鐘が鳴る7時、12時、18時のいずれかの時間）に合わせるとりなしの祈りを捧げ、教会に来られない人も祈りの内になつていっています。

他にも「オルガンと祈りグループ」「ロザリオの祈り会」でも多くの方が祈りを捧げています。

◆ともに祈り

つながる教会の未来へ

特に、「祈りを深めるグループ」や「ロザリオの祈り

会」は、喫緊の課題の「司祭・修道者の召し出しを願う祈り」が熱心に行われ、これからは「宣教と祈りの連絡会」のメンバーも心をつなげて祈ってまいります。

また、2025年3月に作成された「ともに歩む教会の祈り」にあるように、「あなたの祝福がすべての人々に今もいつも豊かにそそがれますように」を心に留めて、活動連絡会議と当連絡会（偶数月第4日曜開催）との連携をよりいっそう進めてまいります。

平和旬間（8月6～15日） アッシジの聖フランシスコの平和を求め祈り

神よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください

憎しみのあるところに愛を

いさかいのあるところにゆるしを

分裂のあるところに一致を 疑惑のあるところに信仰を

誤っているところに真理を 絶望のあるところに希望を

闇に光を 悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください

慰められるよりは慰めることを 理解されるよりは理解することを

愛されるよりも愛することを わたしが求めますように

わたしたちは与えるから受け ゆるすからゆるされ

自分を捨てて死に 永遠のいのちをいただくのですから



Family of St. Ignatius

～インドネシア共同体から～

インドネシア人カトリック共同体の歩み

聖年を歩んでいる教会共同体の具現化として、私たちは東京や横浜近辺にある巡礼のために指定されたさまざまな教会を訪問しています。

日本のカトリック教会における信仰の豊かさや響き合い、インドネシアの文化に根を下ろした信仰もより豊かな信仰になっている気がしています。巡礼の他に、国際的出会いによって、信仰の深みや豊かさも感じています。日本

に留学で来た人たちは国際交流を通して、さまざまな挑戦に直面するにも関わらず、異文化との出会いの中で信仰の対話を促進しています。

日本で受けた異文化との出会いの体験を信仰の目で見るのは簡単なことではありませんが、それが共同体とともに分ち合うきっかけとなります。共同体からの司牧的なケアが非常に求められています。特に、技能研修生や看護師の人たちのために、ミサ以外にさまざまな側面からの支えがますます必要となってくると感じています。

(アントニウス・フィルマンシャー神父)

●主聖堂・マリア聖堂天井火災報知器更新工事●

工事準備・調整のため工事を8月下旬から9月中旬に変更します
 具体的日程は決まり次第お知らせします

期間中は主聖堂の天井の梁に足場を設置いたします。安全確保のため、主日のミサ以外の時間帯は主聖堂を閉鎖し、平日のミサはマリア聖堂で行います。また、主聖堂屋上への資材の搬入・搬出に伴い、クレーン車を主聖堂前庭に設置いたします。みなさまのご理解とご協力をお願いします。

●財務報告●

6月29日(日)「聖ペトロ使徒座への献金」1,436,076円は教皇様の活動のために捧げます。

●教会の夏休み●

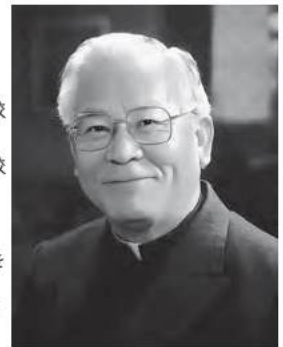
教会案内所 8月11日(月)～15日(金) 夏休み
 信徒会館 8月1日(金)～31日(日) 19時閉館
 告解 8月15日(金)～29日(金) 休み
 クリプタは平常通り(9時～16時)お参りできます。

訃報(R.I.P.) 粟本昭夫神父

7月17日(木)帰天されました。98歳。通夜は7月21日(月)、葬儀は7月22日(火)、聖イグナチオ教会で執り行われました。粟本神父様は叙階後、六甲学院中学校・高等学校で教えられ、後に両校校長をされました。その後イエズス会日本管区長を経て、聖イグナチオ教会で32年間司牧活動をなさいました。この間、広く人々に御言葉を伝え、入門講座、結婚講座からは数多くの受洗者が生まれました。

略歴

1927年2月12日 広島県安佐郡に生まれる
 (現在の広島市安佐北区)
 1951年3月30日 イエズス会入会(長束)
 1962年3月18日 司祭叙階(東京)
 1964年～1982年 六甲学院中学校・高等学校で化学を教える
 1970年～1975年 学校内の修道院院長
 1975年～1982年 六甲学院中学校・高等学校校長
 1972年～1977年 広島学院理事長
 1982年～1987年 イエズス会日本管区長
 1988年～1989年 浄水通教会主任司祭(福岡)
 泰星中学高等学校で化学を教える
 1989年～2010年 聖イグナチオ教会助任司祭
 2010年～2015年 聖イグナチオ教会協力司祭
 2015年～2021年 司牧活動(SJハウス)



2021年1月26日 ロヨラハウス 泰星学園理事長 1983年7月～1986年3月
 2025年7月17日 帰天 1989年4月～2001年3月
 六甲学院理事長 1989年6月～1990年5月
 1997年6月～2001年3月

8月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

1 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
3 (日) 年間第18主日	日曜サロン 11:00~12:30 ヨセフホール
6 (水) 主の変容の祝日	日本カトリック平和旬間 (6日~15日)
10 (日) 年間第19主日	教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付9:30~
15 (金) 聖母被昇天の祭日	平和祈願ミサ 7:00 10:00 12:00 (英語) 18:00 19:30 (ベトナム語)
17 (日) 年間第20主日	日曜サロン 11:00~12:30 ヨセフホール
20 (水)	クリプタに安置され8月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00
24 (日) 年間第21主日	日曜サロン 11:00~12:30 ヨセフホール
31 (日) 年間第22主日	

9月の典礼と行事

1 (月)	すべてのいのちを守るための月間 10月4日まで
5 (金) 初金曜日	
6 (土)	防災訓練 18:00 ミサ後
7 (日) 年間第23主日	防災訓練 7:00 8:30 10:00 18:00 ミサ後 被造物を大切にす世界祈願日 ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール 「ことばの典礼」 講師：高祖敏明神父
10 (水)	傾聴ルーム 11:15~15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
14 (日) 年間第24主日 十字架称賛の祝日	子どもと高齢者とともにささげるミサ 10:00 祖父母と高齢者のための世界祈願日 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付9:30~ 日曜サロン 11:00~12:30 ヨセフホール
17 (水)	クリプタに安置され9月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00
20 (土)	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール
21 (日) 年間第25主日	日曜サロン 11:00~12:30 ヨセフホール
24 (水)	傾聴ルーム 11:15~15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
25 (木)	ヤングオールド映画会 13:00 ヨセフホール
28 (日) 年間第26主日	活動連絡会議 13:00 ヨセフホール 世界難民移住移動者の日・献金

*マジス 10月号は10月5日(日)発行予定です。

●カブトムシ募金の報告●

皆さまから寄せられたカブトムシ募金を難民支援協会に振り込みました。これまでの募金を上回る721,000円になりました。あたたかい心に感謝申し上げます。

日本に逃れてきたあと、厳しい環境が続いている難民の皆さんの生活が改善されるように、将来に希望が持てるように願いながら、カブトムシを育てただけだと嬉しいです。また、カブトムシの様子がおかしくなったり、たくさん卵が生まれて育てきれないようでしたらご連絡下さい。

厳しい暑さが続きますが、お体大切にカブトムシと楽しい夏をお過ごしくださいませ。
柴田 潔神父



主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔

協力司祭：ジェリー・クスマノ
ハビエル・ガラルダ
グエン・ヴァン・テー
関根 悦雄
マヌエル・シルゴ

神学生：アントニオ・マリオ・ダ・
コスタ・ソアレス

シスター：マルセラ・ロサス
フロール・フロレーセ
ジェスリン・ブエンディア
ディン・グエン・ゴック・
トウエン

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00/19:30 (Việt Nam)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (English) /13:30 (Español) /

15:00 (Việt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Our Lady's Chapel

12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】

Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083

千代田区麹町6-5-1

TEL 03-3263-4584

FAX 03-3263-4585

<http://www.ignatius.gr.jp>



Linktree (リンクツリー)
リンクツリー (linktree) とは多
数のリンクをまとめて表示して
いるツールのことです。このQR
コードを読み取ると教会ホーム
ページ、教会ガイド、Twitter、
Facebook、Instagram、
YouTubeへアクセスできます。